

平成 26 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495400222	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花織さいわい		
所在地	(〒212-0053) 川崎市幸区下平間340-1		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
		宿泊定員	9名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

花織さいわいは、南武線の鹿島田駅から、徒歩で15分程にある施設です。施設周辺は整形外科や内科、歯科や鍼灸院などが豊富にあります。花織さいわいは地域に溶け込んだ運営を目指しています。

花織さいわいは平成25年8月1日に認知症対応型共同生活介護と小規模多機能型居宅介護の併設施設として開設しました。ご利用者様に第2の我が家と感じて頂けるよう「安らぎの場所・自由な場所・快適な場所」である施設を目指して支援を行っています。

また、平成26年7月1日より名称が花物語から花織（かおり）へ変更になっています。施設と、地域、ご利用者様、ご家族様を織なし、また「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できるという意味合いを込めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年11月17日	評価機関 評価決定日	平成27年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は、JR 南武線鹿島田駅から府中街道を南下し、徒歩 15 分ほどの住宅地にある。また、JR 川崎駅から川崎市営バス、東急バスの便がある。建物は鉄骨造り 3 階建てで、当事業所はその 1 階部分にある。2、3 階には同一法人のグループホームを併設し、合同行事を開催している。

事業所の理念「ご利用者様の第 2 の我が家を目指します」を実現するため、利用者・家族の要望に寄り添い「通い」「泊まり」「訪問」を自由に選択し、急な変更、連泊、安否確認、通院介助にも対応している。現在の利用状況は、通い 13～15 名、泊まり 7～9 名、訪問 1～2 名である。

玄関、居間には生花やソファが置かれ明るく清潔である。間取りは居間・食堂を中心に両サイドに 9 室の泊まり部屋がある。入り口にキッチンを配し、職員の見守りに配慮している。壁面にはクリスマスツリーや塗り絵を飾り季節感がある。

【地域交流】

町内会や幸区民祭りに参加している。事業所の三大祭には、家族や地域住民を招いて焼きそば、たこ焼き、かき氷などでもてなしている。また、健康祭りでは、基礎代謝量・血管・骨密度測定などを行い、地域住民の健康維持に協力している。地域のボランティアが来訪し、歌とギター演奏、和太鼓などで楽しませてくれる。利用者はリビングで合唱し、ボール運びなどのレクリエーションを楽しみ寛いでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花織さいわい
ユニット名	小規模

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を念頭に置き、利用者様・ご家族様・地域の方々との連携のもと、明るく笑顔あふれるよう、安心して生活できるよう、愛情を感じていただけるように、施設が利用者様の第2の我が家と感じていただけるよう日々の介護を行なっています。また、ケアの方向性を決めるケアカンファレンスや、全体会議の中で都度、施設理念の共有を図るように職員間へ周知しています。	事業所の開設時に全職員で作成した理念「ご利用者様の第2の我が家を目指します」を事務室に掲示している。理念を実現するため、「安らぎ・自由・快適」の場所づくりの思いが示されている。職員には入職時に説明し、フロア会議でも常に振り返り理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭り等に参加しています。散歩の時には、近隣の方にご挨拶を心がけ、近隣の方からも声をかけてくださいます。ご本人が希望される場合にはスーパーでの買い物の支援も行っています。	下平間町内会に加入しお祭りに参加し、幸区民祭りでは、歌や踊りを見物している。地域の防災訓練には職員が参加している。事業所の夏祭りには地域住民を招いて焼きそば、たこ焼き、かき氷などでもてなしている。また、健康祭りでは、基礎代謝量・血管・骨密度測定などを行い、地域住民の健康維持に協力している。地域のボランティアが来訪し、歌とギター演奏、和太鼓などで楽しませてくれる。近隣の幼稚園児や小・中学生児童との交流については、民生委員の協力を得ながら実現して行く意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	健康祭りを開催し、近隣の方々を招いて施設の説明と同時に、認知症や介護保険についての説明や、介護相談会を行っています。		

4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見をもとに、スタッフの名札作製や顔の見える出勤表など、ご要望を取り入れ検討、実施をしています。また、参加した利用者様からのご意見をいただき話し合いを行っています。	会議は2ヵ月に1回開催している。出席者は幸区高齢障害課職員、地域包括支援センター職員、地域代表として町内会婦人部、利用者代表、家族代表、事業所職員、建物のオーナーである。会議では運営報告を行い、地域交流、ボランティアの募集などの協力要請を行っている。出席者から、職員の名前が分かるようにとの要望があり、写真と名前を玄関に掲示した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近隣の地域包括支援センターや、幸区の高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議や施設見学会の情報をお伝えしたり、困難事例の相談に乗っていただいたりアドバイスをいただいています。	川崎市からは制度の改正、研修通知などがある。川崎市小規模多機能型居宅介護事業者連絡協議会に加入し、事例検討会に参加している。地域包括支援センターとは困難事例の相談をしたりアドバイスをもらったりしている。消防訓練には消防署から職員を派遣してもらい指導を受けている	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在身体拘束を行っている利用者様はいらっしゃいませんが、必要に応じて家族を含め話し合いを行っていく予定です。また、施設玄関については防犯上施錠していますが、利用者様のご希望に応じて職員と共に外出していただいています。職員へもあくまで防犯上という事を会議等で周知しています。	身体拘束を行わないことを契約書などに明記している。職員は入職時研修の他、年に1回繰り返し研修を受けている。主玄関は防犯と交通の状況から施錠している。主玄関ホールへの事業所の出入り口には、台所を配置し、職員の見守りで安全を確認している。外出を強く望む利用者には、職員が付き添い、散歩や買い物で気分転換を図っている。「徘徊・見守りSOSネットワーク」の構築については検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、事例検討を含め、どういう不適切介護が虐待になりうるケースなのかを話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見過ごさないよう、また各職員同士でケア方法を注意しながら虐待防止への意識を高く持つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で権利擁護や後見制度について話しています。また、ご家族からの要望があれば、成年後見の手続きのお手伝いを行ったり、地域包括支援センターにご相談に伺ったりしていきたいと考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご利用いただいています。特に、利用方法に関する疑問を具体的に説明し、小規模の柔軟性と利便性をご家族様・ご本人様へお伝えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の面談や、随時の電話連絡により、家族の意見を取り入れるよう努めています。また、運営推進会議にも参加していただき、議場にて話し合い、いただいたご意見を随時取り入れています。	運営推進会議や家族の来訪時に意見・要望を聞いている。朝夕の送迎時にも家族と話し合い、連絡ノートに意見・要望を記入してもらっている。日々の申し送りノートにも記録している。意見・要望の窓口を施設長と計画作成担当者に一元化し、反映に努めている。家族の要望で職員の名前が分かるように、写真と名前を玄関に掲示した。	今回の外部評価で行った「利用者家族等アンケート」などから明らかになった意見・要望を、運営に反映していくことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会にて、職員からの希望や意見を検討し物品の購入や外出レクなど随時取り入れて、よりよいものにできるよう、努めています。	施設長が法人全体の運営会議に出席している。職員の雇用契約更新時には、施設長が「個別面談」を行い、相談や意見要望を聞く機会を設けている。また、法人代表が巡回訪問し、職員の意見を聞いている。月に1回のフロア会議でも意見交換が行われている。職員からの要望で、台所のホワイトボードにその日の「利用種類別人数」を掲示し、業務の円滑化を図った。資格取得には「奨学金制度」を設け、受講の希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇い入れを取り交わしています。意欲や力（知力・体力・精神力）のあるかたには、リーダーやその上を目指してもらおうよう、伝えています。無資格者には、資格取得支援制度などの奨学金制度も整備してあります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や連絡会に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めています。また、他事業所との職員間の交流も行っており、情報交換やサービスの向上を心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、ご家族やご本人に要望や不安ごとを聞き、利用開始時にはアセスメントをしっかりと、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしています。ご本人からの要望に対しては傾聴し、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めています。ご家族の都合で施設に来られない方に関しては、電話やお手紙にてやり取りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況や、おかれている環境を把握し、利用者と家族の物理的精神的環境を考慮し、小規模多機能型居宅介護が適切かどうかとも考慮し、サービスにつなげています。場合によっては、GHや、他事業などへの紹介も行っていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、過不足なく必要な分だけの支援を行い、仕事ができる喜びを分かち合い、他者と協力しながら生活できるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅の近くでは、住み慣れた地域の商店やスーパーなどで買い物を行なえるよう支援しています。また近隣の方と一緒におしゃべりをしたり、施設外を一緒に掃き掃除をして下さったりしています。	利用者は行きつけの病院や近くのスーパーマーケットで友人と交流する機会が多い。友人や知人の来訪時には家族に問い合わせ、お茶を出し歓迎している。馴染みの美容院に出かける時は、職員が車で送迎支援することもある。親しい人との電話の取次ぎや手紙を書く支援も行っている。併設のグループホームとは親睦を深めるため、夏祭りなどの合同行事を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会や季節の行事等、利用者同士の親睦を深めるため合同で行っています。また、良好な関係にあるGHの入居者とのクラブ活動などの交流も心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行っています。入院になった際には、お見舞いをすることでより良い関係性が継続できるよう努めていきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でのお話や、表情、仕草などからご本人の意向を汲み取っています。アセスメントを行い、申し送りやカンファにて、意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望にあわせ、食事内容を変更したり、お散歩や余暇活動のお手伝いをさせていただくなど、個人の自立性を大切にしたケアを行っています。	利用開始時に自宅や入院先で本人・家族に面会し、従前の暮らしぶりや意向を聞いている。習い事の習字や編み物、将棋などの趣味も把握している。家族との「連絡ノート」、日々の「申し送りノート」で職員間の共有に努めている。把握が困難な人には、就寝時や夜勤帯の静かな時、睡眠できない時に話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前や利用後も、利用していた担当ケアマネジャー及び、家族や本人から情報を得て、今までしてきた家事や趣味等が継続できるよう、利用に至る経緯や生活環境なども職員間で共有し、今までの生活習慣が継続できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングやアセスメントを行う過程で、本人の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員、医療職等からの情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。	本人・家族の意向を聞いて介護計画を作成している。月に1回「モニタリング」を行い、短期目標については見直している。6ヵ月ごとに「サービス担当者会議」で評価を行い、医師や看護師の意見を取り入れて介護計画を見直している。家族が担当者会議に出席する時もある。心身の状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映、見直しを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性、意向を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の神社のお参りや幸区民祭りなどの地域活動への参加等を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また受診時には本人やご家族の意向を十分に聞き取り、必要に応じ情報提供や、職員の付添いも行っています。	利用者全員がなじみのかかりつけ医に受診している。家族が遠方に住んでいる人や独居の人には、職員が通院介助することもある。受診結果は送迎時に家族から聞いて、連絡ノートと申し送りノートに記入し共有を図っている。インフルエンザ、肺炎球菌の予防接種は、家族に手紙で通知している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で、相談を行い、個人記録に記入など、情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行って、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった際にはお見舞いや家族との連絡を取ることで、本人の状態を把握できるよう努めています。病院の医療連携室等の相談員の方々と連携を密にして情報の共有に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わし、家族の意向を確認しています。病気発見時は家族の協力を得る為、早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいます。話し合いには、主治医、看護師、介護職員、ご家族等にも参加していただいています。	利用開始時に、利用者がどこで（自宅、入院、事業所）終末期を迎えたいかの希望を聞いている。終末期を迎えた時は、本人・家族、主治医、事業所で協議し、意向に沿った支援を行う方針である。今年、末期がんの利用者の家族からの要請により、主治医と連携し訪問サービス（配食、入浴、清拭、褥瘡対応）で1名を看取った。	研修などを通じて職員の意識の共有を図り、看取り体制をより充実させていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変時の対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、夜間想定の実施を行っています。また、災害時備蓄品も備えています。近隣の方には訓練時にご参加いただき見守り等のご協力を頂いています。	消火避難訓練（夜間想定を含む）を年に2回、併設グループホームと合同で実施している。うち1回は消防署の立ち合いがある。地域の防災訓練には職員が参加している。非常用食料・飲料水の備蓄は併設グループホームと合わせて3日分を確保している。また、カセットコンロなどの防災用品の備えがある。	防災訓練への近隣住民の協力や町内会、自衛消防団との連携など、地域との協力体制を築いていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。その方の生活暦や性格を考慮し、その方に合った言葉掛けや対応を心がけ自立支援のもと生活を支えていく事に気をつけています。特に調理に関しては、男性・女性問わずその方らしさが出るので、意識して行なってもらようにしています。	利用者との契約時に個人情報保護の説明を行い、同意書を受け取っている。職員は、入職時に個人情報保護に関する誓約書を提出し、プライバシー保護や守秘義務などの研修を受講している。職員は言葉づかいに配慮し、職員間で注意しあっている。個人情報に係る重要書類は、事務室のキャビネットに施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣、配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩をしたいのか、又は、のんびりと過ごしたいのか、聞いてから、行動を共に行っています。終身時間も体調等を考慮し、時間だから寝ていただく等はしておりません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいます。季節やTP0に合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、利用者に確認しながら、調理や片づけができるよう、声掛けし職員と一緒に、準備や調理を行っています。	配食業者から食材を購入し、職員が個々の食形態に合わせ調理・盛り付けしている。米飯と味噌汁は職員が作る。利用者は片づけなど出来ることを手伝っている。職員は食事介助に専念している。節分、流しそうめん、いも煮会などの行事食では、職員も一緒に食事をとっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより提供しています。個人の状態に合わせてご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量や食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じて、ご本人の嗜好に合わせた飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛けを行っています。またその方の動きを察知し排泄のサインを見逃さないようにも目配りをしています。	排泄は自立の人が5名で、他の人はリハビリパンツ、パットを使用している。利用者ごとの排泄パターンをもとに声掛けし、トイレに誘導し、自立に向けた支援が行われている。自立支援の効果で、入居後失敗が減った事例がある。トイレは3ヵ所あり、手すり、肘掛、手洗いが設置されている。内1ヵ所は車いす介助ができる広さがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。また、随時体操を取り入れたり、必要な飲水量の確保、おやつの工夫を行い、排便コントロールの支援を行っています。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入って頂けるよう声掛けを工夫しています。拒否がある場合は、その方に合わせた声掛けや誘導をしています。入浴ができないが続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。また入浴時には肌の露出を最低限に留め、羞恥心に配慮をした対応を行っています。さらに、入浴を楽しめるようその人に応じたお声かけや会話をしています。	通いの人はほとんど毎回入浴し、泊りの人は少なくとも週2回は入浴している。入浴したがない人には、職員を代えたり、時間帯を変えて誘導している。毎週木曜日は、法人代表の発想により、湯河原温泉から天然温泉をタンクローリーで運び、足湯を楽しんでもらっている。入浴剤は色の希望を聞いたり、季節のゆず湯や菖蒲湯を楽しんでもらっている。浴室、脱衣所にはエアコンを設置し、同性介助の要請があれば対応している。	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様が、自由にフロアや、テラスにて過ごされています。お一人での移動が困難な場合は、その時の状態観察を行ったり、ご本人に聞いてから、休息の支援を行なっています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動も考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ報告し、連携に努めています。また、看護師が記載した看護記録の確認、又は、個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。また、台所仕事が好きな方には、調理や片付け等を職員と一緒にを行っており、職員から常に感謝の言葉をお伝えしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援しています。また訪問にてご自宅近くの地域の商店やスーパーで買い物や、地域での散歩の支援を行なっています。	天気の良い日には、職員が付き添い車椅子の人と一緒に散歩に出かけている。庭で日向ぼっこをする人もいる。スーパーマーケットや区役所へ職員と一緒に出かける人もいる。季節の花見には車2台でドライブする。本社よりドライバーと車を借りて出掛ける時もある。ドライブ月間を設け希望者を募り小人数で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事務所で行っており、使った額を請求させていただく立替制度を取っています。本人所持の希望はご家族と相談の上使えるように支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の身体状況等に合わせ、お電話を利用できるよう支援しております。また、いつでもお手紙のやり取りができるように文字を書く機会を設けたりし、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共有の空間に、花やインテリアを飾っています。温度や湿度に配慮し、居室にて過ごしている方の状態確認も行っています。食堂の壁には利用者様の作品等を飾り、利用者様とご家族や来訪者との会話にもつながっています。	玄関、居間には生花やソファを置き、明るく清潔である。間取りは居間・食堂を中心に両サイドに9室の泊り部屋がある。入り口にキッチンを設置し、職員の見守りに配慮している。壁面には、クリスマスツリーや塗り絵を飾り、季節感が感じられる。利用者は居間で合唱し、ボール運びなどのレクリエーションを楽しみ寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人になりたいときは、ご利用の宿泊室でお過ごしいただく場面もあります。また、気分を変えるため車で外出など、遊びに行き、気分転換を図っています。利用者様各々が職員介助のもと、宿泊室と食堂への移動を行っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊の回数が多い方は、馴染みの家具やクッションなどお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	宿泊室にはエアコン、照明器具、防災カーテン、ベッド、物入れが備え付けられている。室内は整理整頓され清潔である。利用者は馴染みの縫いぐるみ人形や身の回り品を持ち込み、居心地よく過ごしている。数日の連泊利用者もいる。泊まりは、空きがあれば急なときでも受け入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各宿泊室や浴室、トイレ等、ご自身でもわかるように貼紙をし、ご自身での移動を促しています。洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。その人の力量に合わせて、家事の継続を行っています。		

目標達成計画

事業所名

花織さいわい

作成日

平成27年5月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族が利用者様の様子や施設の情報を今より多く発信してほしいと希望している。	遠方にいる家族や独居利用者の家族にも「見える」介護を実施する。	月1度の報告のしやすさや施設広報誌で発信していく。	1年間
2	35	消防訓練の際オーナーさんには参加いただいているが町内会には未参加。	災害時には近隣住民とも助け合いができる。	消防訓練の日時を町内会役員の方に伝え、参加を願う。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。